

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.31

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



メアリーの鳩

PIGEON SUMMER.

作者 アン・ターンブル
 翻訳者 渡辺南都子
 出版社 偕成社
 発行 1998年11月
 ISBN 978-4037443405

review



特集

鳩よ！

みんな大好き、鳩特集です。そんな書き出しに違和感があるとしたら、鳩という鳥がポピュラーだけれどフレンドリーではないからでしょう。愛鳩家の方にとっては大切なパートナーではあるものの、どちらかといえば、迷惑だと思われることが多い鳥、それがカラスよりは嫌われていない。そんな鳩が児童文学で果たす役割は、困難な状況に置かれた子どもたちが**想いを仮託する存在**です。鳩はあつけない死にます。賢いレース鳩でさえ、帰路を見失うこともありま。鳩**って何考えてんの？**と言ったところで、その思惑などわかるはずもありません。それでも子どもたちは鳩に希望を託します。鳩の登場する物語は、**いたたまれないものばかり**です。空に放った鳩が、強く羽ばたき、無事に戻ってくることを願うのは、子どもたちもまた、**人生のままならない哀しみ**を知っているからなのです。

一九三〇年代の英国中部の炭鉱の町。もうすぐ十二歳になるメアリーの父親は炭鉱夫でしたが、家族の生活を支えるために遠隔地に出稼ぎに行くことになりました。父親の趣味は**伝書鳩を飼**い、**レースに出場させる**ことでした。父親が不在の間、鳩小屋を預かり、世話をするにまつたメアリーもまた鳩レースに夢中です。しかし、出稼ぎに行った父親からの連絡は途切れ、お金も送られてこなくなり。家族は生活に困り、メアリーは**鳩レースの賞金で家計を助けよう**と考えますが、母親は餌代がかかる鳩の飼育には反対で、**ついに鳩を食糧にしよう**とします。共に家のことを心配しながらも母親の気持ちはすれ違います。レースに出場させた鳩が嵐に巻き込まれ、その無事を祈るメアリー。苦しい暮らしの中で、鳩に希望をつないでいく健気な少女の物語です。



飛べないハトを見つけた日から

FRY, CHEROKEE, FRY.

作者 クリス・ダレーシー
 翻訳者 相良倫子
 出版社 徳間書店
 発行 2021年11月
 ISBN 978-4198653842

review



友人と遊んでいた時、ダリルは公園の茂みの中に怪我をして**飛べなくなった鳩**を見つめます。青みがかった黒い翼を持つその鳩は、脚がつけられたリングから、**レース鳩**だということがわかります。飼主を探そうとしたものの、**羽が折れた鳩は殺処分**されてしまうことを知ったダニエルは、この鳩に**チェロキー**と名付け、自分で飼うことにしました。鳩の飼育方を調べ、生育環境を整えていくことで、ぼんやりとした十二歳の少年にも次第に**責任感**が芽生えていきます。ところが、前の飼主の息子で横暴な上級生ウオーレンに、回復したチェロキーを飛ばすとろを見つかり、鳩を盗んだと脅されます。誰にも相談できないまま追いつめられたダリルは、**チェロキーを鳩レースに出場させる**ことで逆転を試みます。**命を預かり育てる**ことの重さを知り、少年は成長していきます。



ナゲキバト

The Mourning Dove.

作者 ラリー・パークダル
 翻訳者 片岡しのぶ
 出版社 あすなろ書房
 発行 1997年10月
 ISBN 978-4751518021

review



交通事故で両親を失った九歳の少年ハニバルは、アイダホ州に住む祖父にひきとられ、一緒に暮らすことになりました。川や湖など自然豊かな環境の中で、好奇心旺盛なハニバルは祖父の**散弾銃や狩り**に興味を持ちます。祖父は動物の命を尊び、遊びで狩りすることを戒めますが、ハニバルは祖父の散弾銃を持ち出し、**ナゲキバトの母鳩を撃ち殺して**しまふのです。そのことで母鳩がいなければ生きられないヒナたちの命も奪わざるを得なくなり、ハニバルは**自分の愚かさを思い知ら**れます。少年の失敗はこれだけでは終わらず、その迂闊さから、数多くの不幸を自ら招いてしまいます。悲しみとともに生きていくことを体感する少年は、あたたかく見守ってくれる祖父の慈愛に包まれ、多くの教訓を得ながら、**人生の深淵**を学んでいきます。痛みを孕んだ、美しい結晶のような少年時代がここに輝きます。



ひねり屋

WRINGER.

作者 ジェリー・スピネッリ
 翻訳者 千葉茂樹
 出版社 理論社
 発行 1999年9月
 ISBN 978-4652071731

review



町のファミリアフェスティバルの最終日には、空に放った五千羽の鳩を銃で撃ち落とす「**鳩撃ち大会**」が行われます。この町の十歳になった少年は、撃たれて地面に落ちた鳩の首を捻**ってとどめをさす**「ひねり屋」になることが決められていました。この町では、鳩は**羽の生えたドブネズミ**程度にしか考えられておらず、ひねり屋になることが、少年たちにとって胸が躍るような憧れだったのです。そんな鳩を**皆殺しにする町**で、部屋に迷いこんできた鳩に、つい餌付けをして懐かれてしまったのが、もうすぐ十歳になる少年、パーマーの不運です。なぜ鳩は殺されなければならないのか。その疑問が心に芽生えてしまったパーマーは、ニッパと名付けた鳩を匿い、なんとか生きのびさせようと手を尽くします。鳩を殺したいワル仲間の裏をかき、少年は**自分の意志**を貫いていきます。

特集
鳩よ！



飛ベゴンザ、あの空を (八束澄子) 岩崎書店 1989年

かつて造船業で栄えた瀬戸内海の島々も不況で寂れてしまいました。小学生の、しげの家では**船の進水式で飛ばす鳩**を造船所から預かり面倒をみていましたが、不要になった鳩を**始末しろ**と言われてます。職を失い落ちちする父親を見守りながら、鳩を空に飛ばす少年の胸中を描く、国内の鳩の物語もまた**痛切**です。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.31

2022年10月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter
連携しています。

@tomostretch